

## 花牛園子さん

牛乳ぷりん

きっかけは、友人の家に手紙が届いたことからでした。『この手紙が届いたあなたは、三日後に五歳の花牛園子さんに出会おうでしょう。その時に三つ願いを叶えてあげて下さい。決して怒らせてはいけません。怒らせたらその後ずっと園子さんに付きまとわれる様になります。園子さんに会いたくなければ、三日以内にこの話を知らない、三人の人に話さない。』

いわゆる不幸の手紙です。友人は誰からの手紙なのか分からなかったそうですが、これで私は三人のうち一人になりました。いえ、怒ってはいませんよ。私もともとお化けなんか信じていなかったのです。それに、もう周りの人間はこの話を知っていたのです。だから私は、『どうせ嘘。だったら三日後を無事に過ぎして、四日目に皆に自慢してやろう』と思っていたのです。

でも、彼女に出会ってしまったのです。私は怖かったのですが、怒らせてはいけなかったので園子さんの願いを聞くことにしました。

一つ目の願いは『名前で呼んで』とのことだったので、私は「園子ちゃん」と呼びました。

二つ目の願いは『一緒に遊んで』だったので、私は一緒におままごとや、お絵描きをしました。その時にはあどけなく笑う彼女を見て恐怖心も和らいでいたのです。

ですが、三つ目の願いは『私と一緒に帰ろう』だったので。私は何処に連れて行かれるのか分からない恐怖で逃げてしまいました。それからです。ずっと誰かに見られている気がする様になったのは。私は怖くなり三日以内にしなかった『誰かにこの話をする』ということを思いつきました。でも、誰がこの話を知らないのか分からなくて困っていました。そんな時に怖い話の募集を聞いたのです。この話を送れば審査の為に沢山の人の目に止まると思えました。そう、今この文章を読んでくれているあなたの様に……。